JARD

第46回

日本死の臨床研究会年次大会

いのちをつなぐ

そのときをどう生きる？ どう支える？

2022年
11.26土・27日

会　場
三重県総合文化センター
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地

大会長
松原　貴子 三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
辻川　真弓 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻

実行委員長
奥川　喜永 三重大学医学部附属病院 ゲノム医療部

演題募集期間
2022年4月4日[月]−6月30日[木]

参加登録期間
2022年7月1日[金]−9月29日[水]

運営事務局
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4番8号 日栄ビル703A あゆみコーポレーション内
TEL 06-6131-6605　FAX 06-6441-2055　Mail jard46@a-youme.jp

http://jard46.umin.jp/

第 46 回日本死の臨床研究会　年次大会

テーマ：「いのちをつなぐ～そのときをどう生きる？　どう支える？～」

開催趣意書

会　　期：2022 年 11 月 26 日（土）・27 日（日）
会　　場：三重県立総合文化センター（三重県津市）
大　会　長：松原貴子（三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター）
　　辻川真弓（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻）
実行委員長：奥川喜永（三重大学医学部附属病院ゲノム診療部）

事務局：三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター
〒514-8507　三重県津市江戸橋 2-174
TEL　059-231-5764
FAX　059-231-5348
Mail　jard46@clin.medic.mie-u.ac.jp
運営事務局：あゆみコーポレーション
〒550-0001　大阪市西区土佐堀 1-4-8　日栄ビル 703A
TEL　06-6131-6605
FAX　06-6441-2055
Mail　jard46@a-youme.jp

開催趣意

日本死の臨床研究会は、「死の臨床において患者や家族に対する真の援助の道を全人的立場より研究していくこと」を目的として 1977 年に設立されました。誰にも平等に訪れる「死」と「死にまつわる問題」に正面から取り組み、すべての人が人生の最期の時まで希望する生き方を実現できるよう、死をめぐる援助の在り方を追求してきました。

第 46 回年次大会は三重の地で開催されます。伊勢といえば、今では伊勢神宮のある伊勢市という限定された土地を指しますが、三重県の多くは元来伊勢の国でした。神宮で古来より継続されている営みとその根底にある思想には、自然と共存し日々の営みを通して実践する真の援助の在り方を示唆してくれるものがあります。「穢れ」という概念には「気が枯れる」という意味があります。「気が枯れる事」つまり「エネルギーの枯渇」です。身近な死に接したものは一定の期間お参りを控えるようにという教えには、感染症予防の概念がなかった時代には感染を持ち込まないため「不浄」とし、神域の出入りを避ける意味があったと推測されますが、それだけではなく「つらく哀しいことに触れ、気力を失ってしまっているひとにとって、その死に向き合い自分の気持ちを整理し、回復をしていく大事な期間」であり「自分を癒す時間が必要である」という気の回復や癒しに焦点をあてた援助の精神が根底にあると思われます。

「常若（とこわか)」とは、常に若々しい状態を保つという意味を持ちますが、老いる・朽ちるを避けるという解釈ではありません。森羅万象の中で老いる・朽ちる・死は自然の摂理です。いのちが有限であるがゆえ、断絶しないよう技術や知識を次の世代に伝承していくことで、常に新しい息吹とともに日々の営みを続けることができるという考えです。20 年に 1 回行われる伊勢神宮式年遷宮もこの考え方に基づくものといえます。看取りのとき「息を引き取る」と表現するように、次世代が引きつぐと読むこともできます。大きな自然・長い歴史の中での一人のひととして、どう生きるか、何を受け継ぎ、次にどのように引き継ぐのか、は大きな命題のように思います。

いのちにまつわるつながりは、家族という血のつながりだけでなく、時の流れの中でのつながり、同じ時間を過ごすものとして社会の中でのつながり、場所のつながりなど様々さまざまあり、きっと、死をも超えたつながりになるでしょう。新型コロナ感染症の出現という未曽有の体験は日々の生活を激変させ、人間関係を分断し孤立・孤独をもたらし、死の臨床における苦悩や困難をより深く複雑にしています。年次大会では、一人のひとが死を迎えるとき「誰と誰がどのようにつながると支えとなるのか」、いつかは死を迎える「私」としては「どのように生き、何をどのようにつないでいけばいいのか」を考える場になればと思います。

第 46 回年次大会が実りある大会となりますよう取り組んでまいります。皆様からのご協力とご支援をどうかよろしくお願いし申し上げます。

大会概要

１．学術大会の名称

第46回日本死の臨床研究会年次大会

２．主催機関等の名称および代表者

大会長：三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター/緩和ケア科　副科長　松原　貴子

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻　教授　辻川　真弓

３．事務局

大会事務局：三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター

〒514-8507　三重県津市江戸橋2-174

TEL　059-231-5764

FAX　059-231-5348

Mail　jard46@clin.medic.mie-u.ac.jp

運営事務局：あゆみコーポレーション

〒550-0001　大阪市西区土佐堀1-4-8　日栄ビル703A

TEL　06-6131-6605

FAX　06-6441-2055

Mail　jard46@a-youme.jp

４．会期

2022年11月26日（土）・27日（日）

５．開催形式

Hybrid形式（現地開催＋Web配信）

６．会場

三重県立総合文化センター

三重県文化会館、生涯学習センター、男女共同参画センター「フレンテみえ」によって構成される「複合型文化施設」

〒514-0061　三重県津市一身田上津部田1234

TEL　059-233-1111（代）

７．年次大会の概要

１）主なプログラム

(1) 主題講演

(2) 特別講演

(3) 教育講演

(4) シンポジウム

(5) パネルディスカッション

(6) ワークショップ

(7) セミナー

(8) 事例検討

(9) 一般演題（ポスター、口演）

(10) 市民公開講座

(11) その他

２）参加費（案）

事前参加登録　会員：8,000 円　非会員：10,000 円
　　学生：3,000 円　市民パス：3,000 円

当日参加登録　会員：9,000 円　非会員：11,000 円
　　学生：3,000 円　市民パス：3,000 円

３）参加予定

約 2,000 人

第46回死の臨床研究会年次大会　プログラム（予定）

●講演　伊勢神宮の智恵
　　河合真如氏（伊勢神宮元禰宜、第62回式年遷宮神宮司庁広報室長）

●講演　地域のつながりを育むコミュニケーション（仮）
　　浜渦辰二氏（元大阪大学、上智大学グリーフケア研究所教授）

●講演　死の臨床における費用（仮）
　　川崎由華氏（がんライフアドバイザー®）

●講演　親の死と向き合う子どものグリーフケアの取り組みについて（仮）
　　井上実穂氏（四国がんセンター　臨床心理士）

●講演　孤独死の現場からのメッセージ（仮）
　　髙江洲 敦氏

●講演　貧困・社会的困窮者への支援～新型コロナ禍における最前線～（仮）
　　藤田孝典氏（NPO法人ほっとプラス理事、反貧困ネットワーク埼玉代表）

●講演　社会的処方～孤立という病を地域のつながりで治す方法(仮)
　　西　智弘氏（川崎市立井田病院緩和ケア内科/一般社団法人プラスケア理事）

●講演　【災害関連企画】
　あいまいな喪失と家族のレジリエンス～災害支援の新しいアプローチ（仮）
　　石井千賀子氏

●講演　写真が語る、いのちのバトンリレー～悲しくもあたたかな看取りの場から
　　國森康弘氏

●講演　ミッシングリンク～失われた光の輪（魂の記憶）を取り戻す～
　　高江洲薫氏

●講演　がん先進医療とゲノム診療～先進のがん医療と意思決定支援の現場～
　　奥川喜永氏（三重大学病院ゲノム診療部、緩和医療専門医）

●講演　ACP2022（仮）
　　木澤義之氏（神戸大学大学院医学系研究科緩和医療学講座）

●講演　ケアの本質（仮）
　　田村恵子氏（京都大学大学院医学系研究科緩和ケア看護学分野）

●講演　支える人がバーンアウトしないために
　　栗原幸江氏（がん・感染症センター都立駒込病院 心理療法士/公認心理師）

■シンポジウム　死を迎える苦しみをケアする
【要旨】死がもたらすこと、そこに関わるひとのあり方やケアの重要性を考え、予期悲嘆への応対・臨終のケア・グリーフケアの具体的な実践を考える。

■シンポジウム　尊厳ある看取りのあり方～コロナ前後で変わったもの、変わらなかったもの～
【要旨】　コロナ禍で看取りのありかたがどのように変わったのかを考える。

■シンポジウム　地域で支える人生の最終段階～孤立化を見据えた死の臨床～

【要旨】2025 年「多死社会」を前に、今すでに長い人生の最終段階の経過の中で、当事者、家族、介護者、医療者の「孤立化」問題が生じている。自分たちのこの先を見据えていく上で、地域でどのようにお互いを支えるのかを考える。

■シンポジウム　食べるをつなぐ

【要旨】食べることは、いのちをつないでいく根幹である。さまざまな病状の進行の中での工夫や対応を多職種で検討する。

◆パネルディスカッション

身寄りのない人や家族関係が複雑な人の意思決定支援を考える（仮）

【要旨】身寄りのない人や家族関係が複雑な人の意思決定支援を考える

◆パネルディスカッション

さまざまな医療の現場でのアドバンス・ケア・プランニング（仮）

【要旨】 救急・集中治療の現場、緩和ケアの現場、地域連携の現場などから、ＡＣＰをめぐる現段階の取り組みと問題点・悩み、また今後の進め方のアイデア・展望などを紹介してもらう。貴重なインスピレーションを参加者それぞれに得る場としたい。

★市民公開講座

もしもの話をもっと身近に一元気な時に始める人生会議一

【要旨】一人の人間として「人生の最終段階を自分のこととして考える」ことは、様々な困難をともなう。 死の臨床研究会年次大会の開催という特別な機会を「地域住民の方が『人生会議』の大切さや重要性を知る機会」とし、市民を対象に、大切な人の思いをキャッチしたり、つなぐことが大切であることに気づけるような公開講座としたい。

★ワークショップ　　医療者のセルフケア

【要旨】医療者のセルフケアをテーマにして、癒しとくつろぎを得るワークショップ

★国際交流広場

✧一般演題（ポスター発表）250 題

✧事例検討（60 分枠８題、90 分枠４題）